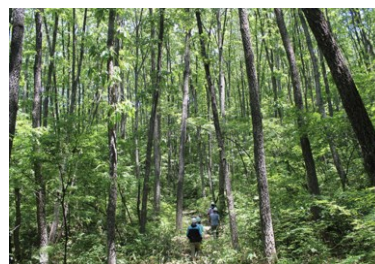


キーワード 80年の森林経営で育まれた生物多様性

フィールド 森林保全

活動目的

社有林で培った持続可能な森林経営の実践による、生物多様性保全への貢献



アサヒの森



活動内容

「自然の恵み」を享受して事業を行うアサヒグループは、グループ理念「Asahi Group Philosophy」で謳っている「期待を超えるおいしさ、楽しい生活文化の創造」のために、豊かな自然の恵みを未来世代へつなぐことを目指しています。2010年3月、日本国内酒類業界で初めて、生物多様性保全活動の基盤となる考え方や方針をまとめた「生物多様性宣言」を公表。2023年2月に改定した「アサヒグループ環境ビジョン2050」に基づく取り組みを通じて、自然の保全・回復に取り組んでいます。

主な活動

1、社有林「アサヒの森」の責任ある森林経営と生物多様性保全

社有林「アサヒの森」は、1941年から持続可能な森林経営に取り組んでいます（2001年FSC認証取得）。

80年に渡る森林経営のもと、アサヒの森は生物多様性が豊かな状態が保たれています。2010～2012年にアサヒの森全山で行った生物多様性調査では、植物668種、鳥類60種が確認されました。2014年には「アサヒの森 生物多様性保全の基本方針」を制定。2023年5月には、アサヒの森の一部である「甲野村山」（広島県庄原市）が、環境省「自然共生サイト」に認定されています。

2、持続可能な水資源の実現

水は、「自然の恵み」を享受して事業を行うアサヒグループにとって、欠かすことのできない大切な資源であり、地球環境にとっても大切な資源です。社有林「アサヒの森」では、適切な森林管理により年間約1,101万㎡の水を涵養しています。それらの知見を活用し、アサヒグループ国内工場の水源流域における自治体と連携・協力により、森林の水涵養機能の維持・向上に貢献する活動を開始しています。

3、水源地の森林保全活動

「水」は、アサヒグループの事業に欠かすことのできない大切な資源です。2004年から社員による水を育む森林の保全活動を行っています。これまでのべ約10,000人の従業員が活動に参加しています。

ポイント

- ・ 80年間、適切な森林管理を続け、豊かな生物多様性を育む社有林「アサヒの森」
- ・ 社有林「アサヒの森」での責任ある森林管理による生物多様性の保全と、その知見を活かした工場流域での展開

活動効果、今後の展開 等

- ・ 社有林「アサヒの森」での責任ある森林管理による生物多様性の保全と、その知見を活かした工場流域での展開。